

■ 概況

6/20~6/26のNYMEX・WTIは、56.65~59.38ドルの範囲で推移した。

6月27日は、米中首脳会談への楽観的観測や前日の米国在庫の取り崩し報告など上げ要因の一方で、利益確定売りなどもあり、小幅に続伸した。7月限終値は前日比0.05ドル高の59.43ドル。

週末28日は、29日の米中首脳会談などG20大阪サミットにおける諸会談、7月初めのOPECプラスの会合を前に、様々な思惑が入り乱れ、様子見姿勢や利益確定売りも広がり、3日ぶりに反落した。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働リグは793基の前週比4基増と2週連続の増加だった。8月限終値は前日比0.96ドル安の58.47ドル。

週明け1日は、29日のプーチン露大統領・ムハンマド・サウジ皇太子会談を踏まえた、OPEC総会の6月末で期限切れの現行協調減産の9か月間延長合意、また、29日の米中首脳会議で貿易協議再開と第4弾追加関税見送りの決定を好感し、反発した。8月限終値は前週末比0.62ドル高の59.09ドル。

2日は、OPECプラスの合同会議で、正式に現行協調減産の2020年3月まで9か月延長、OPECプラスの枠組みを「協力憲章」として恒久的枠組みとすることで合意された一方で、米国の対EU追加関税浮上、利益確定売りなどから、大幅に落した。減産延長はこれまでの価格上昇に織り込み済みとの見方もあった、8月限終値は前日比2.84ドル安の56.25ドル。

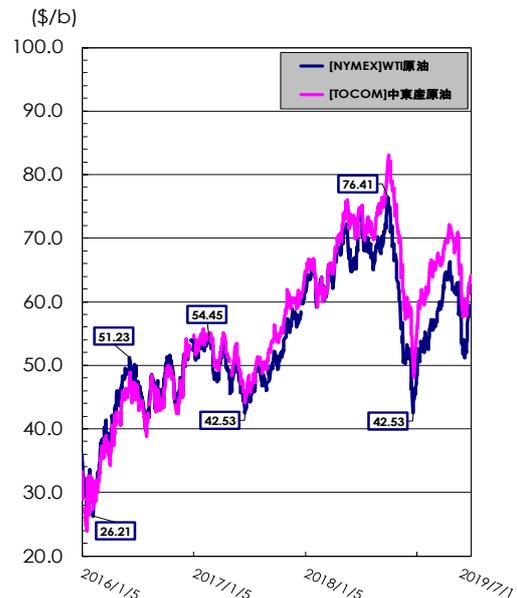
3日は前日の大幅反落の反動で、買戻しが広がり反発した。また、米国株価の9ヶ月ぶり高値も好感された。ただ、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が3週連続で取り崩されたものの市場予想を下回ったことが上値を抑えた。8月限の終値は前日比1.09ドル高の57.34ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(8月渡し)は6月20日~26日の間62.60~64.90ドルの範囲で推移した。6月27日64.80ドル、28日64.70ドル、7月1日64.60ドル、2日63.70ドル、3日61.10ドルで推移した。

為替は6月20日~26日の間107.28~107.79円の範囲で推移した。6月27日107.72円、28日107.79円、7月1日108.25円、2日108.48円、3日107.70円で推移した。

そのような中で、7月1日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は同3円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は7週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりだった。この週(7月第1週)の原油コストは値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、1.0円と1.5円の値上げに分かれた。

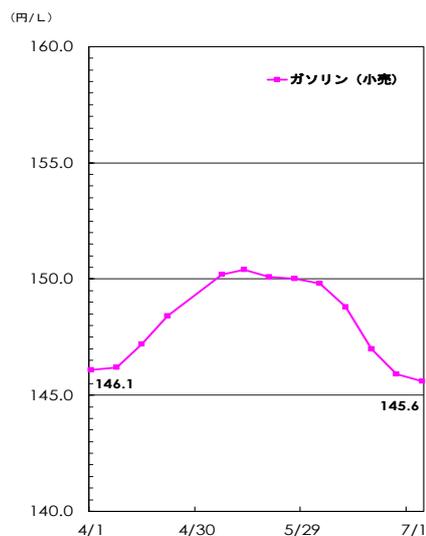
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/23 ~ 6/29	3,316 ▲65	▲-
	トッパー稼働率 (%)	"	84.7 ▲1.7	▲-
	原油在庫量 (千kl)	6/29	13,097 ▲421	▲-
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/1	64.10 ▲1.68	▼-10.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/1	59.09 ▲1.19	▼-14.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	73.71 ▼-0.12	▲2.95
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,981 ▼-45	▲2,420
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.96 ▼-0.08	▼-0.86
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/1	109.25 ▼-0.83	▲2.62



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/23 ~ 6/29	896 ▲ 6	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	883 ▼ -37	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -52	▼ -	
	在庫	6/29	1,480 ▲ 14	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/25 ~ 7/1	58.5 ▲ 1.7	▼ -8.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/25 ~ 7/1	55.9 ▲ 2.0	▼ -8.8
		(TOCOM/中部)	7/1	58.6 ▲ 2.3	▼ -7.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/1	145.6 ▼ -0.3	▼ -6.2	

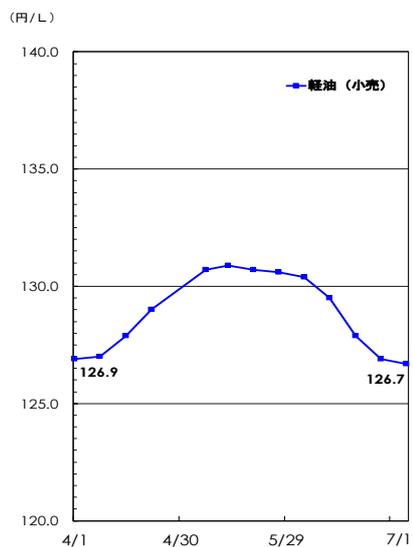
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

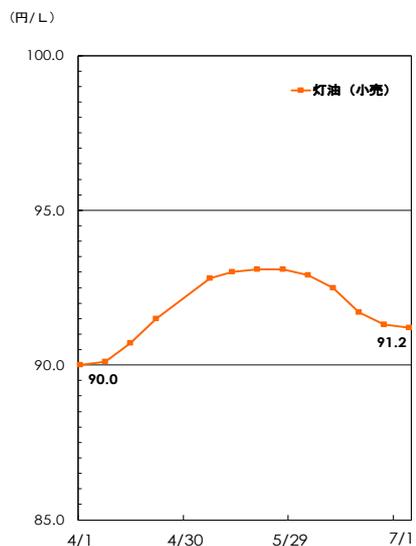
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/23 ~ 6/29	864 ▲ 123	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	622 ▲ 8	▲ -	
	輸出	"	270 ▲ 82	▲ -	
	在庫	6/29	1,310 ▼ -28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/25 ~ 7/1	60.9 ▲ 1.0	▼ -7.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/25 ~ 7/1	61.9 ▲ 0.7	▼ -5.8
		(TOCOM/中部)	7/1	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/1	126.7 ▼ -0.2	▼ -3.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/23 ~ 6/29	101 ▼ -58	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	94 ▼ -45	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -6	▶ -	
	在庫	6/29	1,495 ▲ 6	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/25 ~ 7/1	60.7 ▲ 2.1	▼ -6.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/25 ~ 7/1	57.7 ▲ 2.1	▼ -10.4
		(TOCOM/中部)	7/1	59.5 ▲ 2.0	▼ -8.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/1	91.2 ▼ -0.1	▼ -1.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月3日のNYMEX市場WTI原油は、前日の大幅反落の反動で、買戻しが広がり反発した。また、米国株価が利下げ期待から9ヶ月ぶりの高値を付けたことも投資家の心理を好感させ、この日発表のペーカー・ヒューズ社の米国稼働石油掘削装置数も前週比5基減の788基と相場を支えた。ただ、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比110万バレル減と3週連続の取り崩しであったものの市場予想(300万バレル減)を下回ったことが上値を抑えた。8月限の終値は前日比1.09ドル高の57.34ドル、9月限の終値は前日比1.10ドル高の57.44ドル。

EIAによると、7月1日時点のガソリンの小売価格は、前週比5.9セント値上りの1ガロン2.713ドル(78.2円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値下りの3.042ドル(87.7円/ℓ)となった。ガソリンは8週ぶりの値上がり、ディーゼルは6週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年6月23日～6月29日に休止したトッパー能力は37.0万バレル/日で、前週に対して7.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は331.6万klと、前週に比べ6.5万kl増加。前年に対しては49.8万klの増加。トッパー稼働率は84.7%と前週に対して1.7ポイントの増加、前年に対しては12.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/0.7%増、ジェット/17.4%増、灯油/36.5%減、軽油/16.6%増、A重油/18.7%増、C重油/5.6%減。今週のC重油の輸入は2.5万kl(前週比2.5万kl増)。軽油の輸出は27.0万kl(前週比8.2万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではC重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は88.3万kl(対前週4.1%減)と3週振りで減少となり、26週連続で100万klを下回った。ジェット17.1万kl(対前週32.7%増)、灯油9.4万kl(対前週32.3%減)、軽油62.2万kl(対前週1.3%増)、A重油20.5万kl(対前週20.9%増)、C重油16.3万kl(対前週20.7%減)。

(単位:千kl)

	今週 (6/23 ~ 6/29)	前週 (6/16 ~ 6/22)	前週比
ガソリン	883	920	▼ -37 (-4%)
ジェット燃料	171	129	▲ 42 (33%)
灯油	94	139	▼ -45 (-32%)
軽油	622	614	▲ 8 (1%)
A重油	205	170	▲ 35 (21%)
C重油	163	205	▼ -42 (-20%)
合計	2,138	2,177	▼ -39 (-2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月29日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった

ガソリンは148.0万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては12.8万kl少ない。

灯油は149.5万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては4.5万kl少ない。

軽油は131.0万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては10.6万kl少ない。

A重油は67.8万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては6.6万kl少ない。

C重油は194.8万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては7.9万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (6/29)	前週 (6/22)	前週比
ガソリン	1,480	1,466	▲ 14 (1%)
ジェット燃料	908	934	▼ -26 (-3%)
灯油	1,495	1,489	▲ 6 (0%)
軽油	1,310	1,338	▼ -28 (-2%)
A重油	678	690	▼ -12 (-2%)
C重油	1,948	1,925	▲ 23 (1%)
合計	7,819	7,842	▼ -23 (-0.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月25日～7月1日の原油価格は、前週比で上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、6月25日～7月1日の間、ガソリン111～113円台で大きく値上がり、軽油59～61円台で大きく値上がり、灯油59～61円台で大きく値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン112～114円台で激しく値上がり後ほぼ横ばい、軽油63～64円台で大きく値下がり後わずかに上昇、灯油53～57円台で激しく値上が

りして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～111円台で大きく値上がり、軽油61～62円台で値上がり後横ばい、灯油56～58円台で大きく値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、1.0円と1.5円の引き上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月25日～7月1日の製品スポット市況は、6月18日～24日平均と比べ、海上の軽油を除き、他の全取引・全油種で値上がりした。

7月第2週(7/4～7/10)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6/25～7/1千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は1.0円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは2.6円の値上がり、灯油は3.3円の値上がり、軽油は0.8円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが2.0円の値上がり、灯油は2.1円の値上がり、軽油は0.7円の値上がりだった。

7月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0円と1.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー 4地区平均]	今週 (6/25～7/1)	前週 (6/18～6/24)	前週比
レギュラー	58.5	56.8	▲ 1.7
灯油	60.7	58.6	▲ 2.1
軽油	60.9	59.9	▲ 1.0

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値] [平均]	今週 (6/25～7/1)	前週 (6/18～6/24)	前週比
レギュラー	55.9	53.9	▲ 2.0
灯油	57.7	55.6	▲ 2.1
軽油	61.9	61.2	▲ 0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/25～7/1実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.7	▲ 2.0	▲ 1.8
灯油	▲ 2.1	▲ 2.1	▲ 2.1
軽油	▲ 1.0	▲ 0.7	▲ 0.8
A重油	▲ 1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の145.6円、軽油も同0.2円安の126.7円、灯油は18%ベースで同3円安の1,641円(1%ベースでは同0.1円安の91.2円)だった。ガソリンと軽油は7週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりだった。都道府県別には、値上がりが5県、横ばいが8都県、値下がりが34道府県だった。全国最安値は宮城県の139.5円(前週比0.6円安)、その次は神奈川県139.9円(同1.7円安)、最高値は長崎県の158.1円(同0.2円安)であった。最も値上がりしたのは0.5円高の大分県(152.8円)、値下がりしたのは1.7円安の神奈川県(139.9円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。

今週も、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円と1.5円の引き上げに分かれた。次週(7月8日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/1)	前週 (6/24)	前週比	直近高値
レギュラー	145.6	145.9	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	91.2	91.3	▼ -0.1	08/8/11 132.1
軽油	126.7	126.9	▼ -0.2	08/8/4 167.4

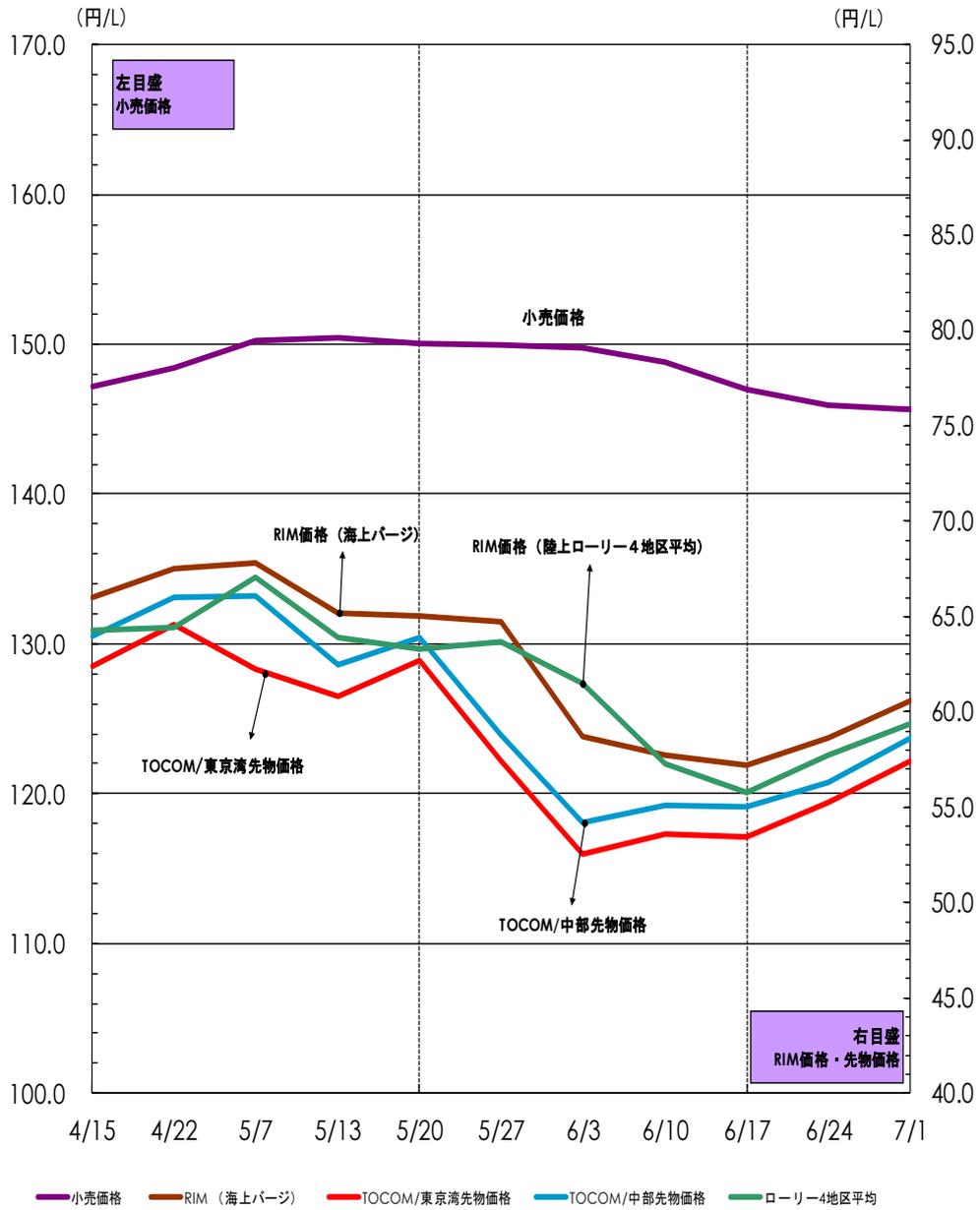
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/4/15 ~ 2019/7/1)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第14号)の公表は、7/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。